

なぎさ

川内原子力発電所
NAGISA

2025年
1月号
No.236



「白銀の中で」(薩摩川内市蘭牟田池) 撮影: 駒走 信文(ピン写連)

子供たちの 詩

「こたつ」

帰ったら みんなこたつに入る

みんなの足で 中は きゅうぎゅう

家族みんなで 楽しい話

足も 心も ポツカポカ

外は 風で 冷たいけれど

こたつに入れば あったかい

一度入ったら ぬけられない

冬の定番 みんなの こたつ

これからも よろしくね

阿久根市立

大川小学校六年

ふるた

ゆい

古田 結音さん





～4月にオープン「甕ミュージアム」～

地球の変化を、甕島で体感しよう。

約6600万年前にほぼ絶滅した恐竜。世界各地でその化石が発掘されていますが、ここ薩摩川内市の甕島でも次々に見つかっています。甕島の地層ならではの貴重な特徴もあるとか。4月にはいよいよ恐竜や甕島の成り立ちなどについて学べる「甕ミュージアム」が開館します。

**これまでの展示を踏まえて
より充実した設備や内容に**

地球上に恐竜が出現したのは、今から約2億3000万年前。長い間に進化と多様化を繰り返して繁栄しましたが、6600万年前に巨大隕石の衝突で地球環境が激変。恐竜たちもほとんどが絶滅してしまい、その後、哺乳類が繁栄し進化して、やがて人類へとつながっていきます。

現在、地球上のあちこちで恐竜の化石が発掘されており、日本国内でも19道県で発掘。九州では福岡県、長崎県、熊本県、そして鹿児島県でもここ甕島鹿島町で2008年に初めて発掘されました。

それ以後も発見が続き、それらの化石を地域の宝として保存・継承していくため、施設や設備を新たに今年4月に「甕ミュージアム」がオープンとなるのです。

**甕島ならではの可能性
研究の進展も期待される**

以前から甕島の恐竜や地層の研究に携



(上)平置きになり、発掘の様子が感じられるハドロサウルス類恐竜の骨格標本。
(右下)甕島断崖では、8000万年前からの地層が、海の絶景とともに観察できる。
(左下)2016年に甕島で発掘された大腿骨の一部(レプリカ)を抱く山下大輔さん。

わり、ミュージアムの担当でもある山下大輔さんも、開館を待ち望んだ一人です。「甕島の特徴は、まず恐竜時代の最も後期の地層であること。そして、恐竜が滅んだ時期と哺乳類が活発になっていく時期(約5000万年前)の、両方の地層が島

処理室も新設。甕島で大腿骨が発見されたハドロサウルス類の恐竜の大型骨格標本は縦置きから平置きに変更されて展望デッキが新設されるなど、装いも新たに展示されます。

また、これまで続いてきた毎夏の「発掘体験会」や、毎月実施の「化石プログラム」も引き続き開催予定。これを楽しみにする恐竜ファンの来島が期待されます。

鹿島町の海岸には、「鹿島断崖」と呼ばれる高さ200メートル近い崖がそびえています。これは恐竜が生息していた約8000万年前から現在に至る地層が見事に露出したもの。この地層を見ても甕島の特異的な長い歴史がうかがえます。この断崖付近でも、もちろん恐竜の化石が見つかるに違いないそうです。ミュージアムを訪れる際は、ぜひこちらも見学したいですね。

甕島へ渡るルートは、薩摩川内市の川内港から(高速船)と、いちき串木野市の串木野新港(大型フェリー)からがありますが、このうち串木野新港のフェリーは3月に新造船「結Lineこしき」が就航の予定。島への旅がより快適になります。

地球の長い歴史に触れる甕島へ、ぜひ出かけください。

【問い合わせ】

甕ミュージアム

薩摩川内市鹿島町蘭牟田1457-110

☎0996991412211



薩摩川内市誕生20周年記念式典でも、練習の成果を込めた「木遣り唄」が披露された。

心を合わせて唄い
市民の安全を願う

サークル紹介

「薩摩川内 火けし保存会～木遣り隊」

●薩摩川内市



法被姿もりりしい、藤崎幸一さん(右・薩摩川内市消防団入来副方面隊長)と、指導に当たった宮里英子さん(左・薩摩川内市消防団本部副団長)

昔から日本に伝わる「木遣り唄」をご存じでしょうか。重い材木や石などを運ぶ際、全員の心を統一して事故がないよう息を合わせる仕事歌です。

9年前、薩摩川内市の消防局と消防団の有志が集まって「薩摩川内火けし保存会」を結成した際、その一環として「木遣り唄」も生まれました。当初は皆さん木遣り唄についての知識もまったくなく、まさに暗中模索。地元で音楽講師を務め、消防団の一員でもある宮里英子さんが、東京の木遣り唄保存会の教えを受けて歌詞を書いた大きな紙を作成。メンバー三十数名にそれを見せながら指導していったそうです。

「当初は皆さんも苦労されましたが、毎週集まって猛特訓した結果、次第に息も合っていました。3か月後の出初式には見事に披露できました」と、宮里さん。

木遣り隊隊長の藤崎幸一さんも「メンバーは皆、日ごろはそれぞれの地区で活動していて交流機会も少ない。それだけに、いざ災害などで協力しなければならぬときに連携が取れるチームワークが大事です。木遣り唄で、それが培われるのがいいですね」と、その意義を語ります。

これからも、市民の安全を願って、この伝統的な唄が受け継がれていくでしょう。

【問い合わせ】

薩摩川内市消防局警防課

☎0996-222-0125



地をはうような枝ぶりで見事に花開いた「臥龍梅」

すよこつと
行たつみろうがい

「藤川天神」の臥龍梅と「冠嶽園」の梅林

(薩摩川内市・いちき串木野市)

平安時代、京の都から大宰府に流れ、非業の死を遂げたときれる菅原道真。その晩年に実は、ここ薩摩の地に移って没したという説があり、薩摩川内市東郷町には道真を祭った「藤川天神」が建立され、今も多くの参詣者が訪れます。

道真は大宰府でも「飛梅伝説」として梅との絆が伝わっていますが、ここ藤川天神にも同様の伝説があります。早春に300本近い紅梅が花開き、うち55本は国指定天然記念物の臥龍梅。これは、古い

て地面に倒れた木がそこに根を張り、新たな若木が育つことで、まるで地をはう龍のように見える特異な梅の一種です。そのもととなった親木が、菅原道真の手植えといわれるのです。

全国各地の臥龍梅園の中でも指折りといわれる藤川天神では、毎年2月25日の道真の命日前後に満開を迎え、梅祭りも開かれます。今年は23日に境内の舞台で、津軽三味線や演歌が披露され、露店も出て観梅客を楽しませる予定です。

また、この時期、いちき串木野市でも、徐福伝説で知られる「冠嶽園」の梅が見ごろを迎えます。梅は原産地が中国で、奈良時代までには日本に伝わり、万葉集などにも多く詠まれました。中国式庭園や建物の特徴の冠嶽園には、まさにふさわしい花の景観ですね。爽やかな香りが早春の兆しを告げることでしょう。

【問い合わせ】

藤川天神

☎0996-421-0753

冠嶽園(指定管理 坂口造園)

☎0996-133-2552

川内原子力発電所からのお知らせ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さま方には、お健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

川内原子力発電所は、一、二号機ともに安全・安定運転を継続しています。

一号機は、昨年七月に運転開始後四十年を経過しました。また、二号機は、本年十一月に運転開始後四十年を迎えます。

あらためまして、これまでの皆さまのご理解とご支援に深く感謝申し上げます。

今後とも地域の皆さまに安心していただけるよう、所員一同、原子力安全の取り組みに終わりはしないことをしっかりと認識し、発電所の安全・安定運転とともに、積極的な情報公開と分かりやすい説明に努めてまいります。

本年も昨年同様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和七年二月
執行役員 川内原子力発電所長 池田 純也



所長あいさつ



昨年6月に、川内原子力総合事務所に就任しました。

前職の川内原子力発電所長在任中から、地域の皆さまには発電所の運営に対しまして、ご理解を賜り深く感謝申し上げます。

今後とも皆さまのご意見・ご要望などにしっかりと耳を傾け、フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーション活動を推進するなど、分かりやすい情報発信に努めてまいります。

執行役員 川内原子力総合事務所長 大久保 康志



昨年6月に、川内原子力発電所長に就任しました。

一昨年まで当発電所に勤務しておりましたので、1年ぶりの勤務となります。

今後とも、地域の皆さまに安心していただくために安全を最優先に、発電所の安全・安定運転に取り組んでまいります。

引き続き、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

執行役員 川内原子力発電所長 池田 純也

川内原子力発電所 見学のご案内

川内原子力総合事務所では、川内原子力発電所の安全・安定運転の取り組みについて、地域の皆さまにご覧いただけるよう、発電所見学を実施しております。★1団体10名様以上を目安にお申込みください。

九州電力株式会社 川内原子力総合事務所

TEL 0996-20-4072 [受付時間] 月～金曜日 9:00～17:00 (祝日は除く)

携帯メールサービス

大規模地震発生時の原子力発電所の運転状況等の緊急情報や、当社からのお知らせなどをメールでお届けします。なお、スマートフォンや携帯電話に加え、パソコンへの配信も可能です。



1.緊急情報

九州内で震度4以上の地震が発生した時に、原子力発電所の運転状況などをお知らせします。



2.お知らせ(メールマガジン)

当社からのお知らせをお届けします。(不定期)

登録はこちらから

パソコンから

https://www.kyuden.co.jp/em_mail.html

※本サービス利用にあたり、登録料・情報料は発生しませんが、別途、携帯電話会社等への通信料が必要です。

スマートフォンから



九電グループFacebookページ

公式Facebookでは、驚きと共感をテーマに、知られざる社員の姿や暮らしに役立つ電気の豆知識、省エネ情報などをお届けしていますので、ぜひご覧ください。

